

吉原東中学校の適正化に関する保護者説明会（令和3年12月14日）要旨

会場：吉原東中学校体育館

事務局より

- ・広報紙による具体的支援策の提案
- ・「令和6年4月編入」及び「編入統合を理由とする指定校変更はできない」の説明

以下、質疑応答（【凡例】○は意見、質問 →は教育委員会の返答）

○吉原東中学校の入学説明会の折にも話を聞いたが、思春期と編入統合が重なり、精神的に不安定になって不登校になってしまわないか心配である。これから入学する子どもたちにとって、入学する前に編入統合の予定があると知らされたからといっても、選択肢があるわけでもない。子どもたちにはどのような配慮をしてもらえるのか。また、部活動については合同チームを編成することを検討するとあったが、冬季は部活動の時間が30分ぐらいしかないのに、どのように実施するのか。

→現在、考えている支援策を、広報紙第3号に記載しています。これだけでは支援策が足りないということであれば、具体的な要望を教育委員会に寄せていただきたいと思います。また、部活動において、合同チームは、既にいくつか存在しています。冬季は時間的に難しいが、土日の練習などを中心に行っている実例があり。そうした学校の部活動を参考にしていけると考えています。

○合同チームのスタートは令和4年4月からということか。

→まだ、提案の段階なので、令和4年4月からスタートできるとはお答えできませんが、編入が確定されれば、次年度から事業を少しずつ進めていくことができると思います。

○決定はどう決めていくのか。反対意見が少しでもあれば止まってしまうのか。それとも、ある程度強制的に決めていくのか。問題や課題が多すぎて、全く解決されていない。吉永一小と原田小の交流活動は1回だけ、しかも英語の授業をリモートでやっただけと聞いた。もう少し、長い目でじっくりやったほうがいいのではないか。

→令和6年度統合案が実現できるかどうかは、少なくとも今年度中にはっきりさせていきます。保護者や地区住民のすべての方が賛成してくれるとは思っておりません。しかし、子どもたちの豊かな学びのために、編入統合を実現したいと考えております。最終的には、教育委員会の会議で決定し、議会で条例案を議決してもらって最終的な決定となります。また、富士市では、各中学校区での9年間の義務教育を一体的に考える小中一貫教育を推進しています。しかしながら、昨年度から今年度にかけて、コロナ禍により、交流活動を十分に行うことができなかったことは、非常に残念です。今回の提案内容が正式に決定されれば、最大限に進めてまいります。

○一番大切なことは、子どもだと思うので、できる限り子どもに負担がかからないようにしてほしい。

→これまでの説明会で、子どもに負担がかからないということが現実的にあるのかという質問を、何回かお受けしました。現実的にゼロにすることはできませんが、少しでも減らしたいという思いで支援策を提案しております。支援策に不足があると思ったときは、遠慮なく教育委員会に意見をいただきたいと思います。

○お願いが1点、そして質問が3点ある。(子どもたちに) アンケートを実施したとあったが、アンケートの結果をネットなどで公表してほしい。これが、お願いである。続いて質問が3点ある。1支部の説明会で、「吉原東中は非常に素晴らしい教育を行っているのだから、廃止しないでほしい」という意見があった。いい学校を敢えて潰そうとする理由がわからない。その理由をはっきり説明してもらいたい。質問の2点目だが、吉原東中学校では、富士岡神楽、大龍の舞を授業で行っているが、それはどうなるのか。教育委員会としては、地域の文化がどうなってもよいということか。3点目。学校統合によって、通学時間は長くなり、生徒は不自由になる。ヤングケアラーのことも社会で話題に上っているのに、通学時間を長くする正当性は何か。また、交通指導に交通指導員の力を借りるとあるが、交通指導員に話を通していない。教育委員会が勝手にやると宣言することは疑問だ。→地域に根差した教育を実施しているのは、どの学校も同じです。しかし、昨今の少子化の傾向を考えると、今のままの教育水準を保つことはできなくなっていくと思います。そのため、ある程度の教育集団を確保することができる学校で子どもたちの教育をすることが大切であると考え、今回の基本方針が策定されました。二点目の富士岡神楽、大龍の舞を総合学習で取り組んでいることは存じております。しかし、今のまま吉原三中に移行することは難しいと思われまます。編入統合や適正化の動きは、地区の伝統的な文化活動をなくそうとしているわけではありません。ぜひ、地区の子どもたちと一緒に地区活動を盛り上げていってほしいと思います。三点目のヤングケアラーについては、行政が支援できるようにしていかなければならない課題ですが、通学時間とは別問題であると考えていただきたいと思います。交通指導員に力を借りるという点については、正式に決まった段階でまちづくり協議会を通じて改めて協力を依頼します。アンケート結果の公表については、子どもたちに公表を前提としたアンケートであることを伝えておりませんので、現段階で詳細を公表することはできないが、傾向について公開するなど前向きに検討します。

○「学校統合」といっても、ただの吸収にしか聞こえない、統合であれば、校名を変えるなどした方がよい。その方が地域は納得する。部活動について、吉原三中にはあるが吉原東中になく部活動をやりたい場合、どうなるのか。次に、前回の説明会では、スクールバスの話もあったが、広報紙にはスクールバスについて何も記載がないがどうなったのか。それから、学習についてである。編入統合が行われると、テストの学年順位が上下する。だから最初から合同で定期試験を行うなどして、合同順位がわかるようにしたほうがよい。両校の先生が連絡を密にとって、授業も進み具合もそろえた方がよい。テストも、教育委員会が作成するかきちんと考えた方がよい。また、学用品のジャージなどを教育委員会で用意することも考えてほしい。また、自転車の通学を認めるのならば、購入に対する補助なども考えるべきではないか。次に通学路についてであるが、教育委員会は実際の通学路となる場所を歩いて回るなど、安全性、距離感を確認しているのか。根方街道を超えてから道に防犯灯はほとんどないが。

→校名については、地域や保護者から同様の意見があったが、まず生徒の教育活動をスムーズに継続していくことを優先することとし、校名変更は保留としています。編入統合後、そうした要望が継続してあれば、検討していきたいと考えます。通学手段は、学区の状況から自転車通学の方がよいとの結論に至り、現在スクールバスは検討しておりません。また、自転車購入に係る補助も現時点では考えておりません。部活動は在籍する中学校の部活動に所属するというのが、中体連の規定に

なっております。今後統合が決定されたときに部活動を転部するというのは問題がありません。編入統合されても、活動していた部活動での活動は、卒業まで保障します。その後は、部活動ガイドラインに従って活動していくことになります。授業においては、吉原東中と吉原三中で同じ中学校区として、小中一貫教育を実施しています。したがって、目指す子ども像も共有しているし、授業方針も共有しております。また、校内の順位によって進路先が決まるわけではありません。学用品については、関係する校長先生方と話をしているところですが、ワークブックなど、そろえられるものはそろえていくよう、学校へお願いしていきます。ジャージなどの学用品費を補助することについても、教育委員会で検討しております。最後に通学路のことです。中学生は指定する通学路はなく、自らの判断で安全な道を選択し登校しております。今後は学校側と相談し、明るく広い道を通学路として推奨するなどをしていきたい。街灯などは、まちづくり協議会を通して、まちづくり課や道路関係部署に依頼をしてほしいと思います。

○吉原東中の神楽、大龍の舞、第六天太鼓といった伝統芸能が残っていったらいい。吉原東中独自の縦割活動など、いいものを取り入れることを学校同士に任せるのではなく、教育委員会も関わってほしい。

○4支部、5支部の子どもたちは、吉原三中でどうしても疎外感を感じてしまうようだ。原田地区でも仲間ができているので、入っていくのは難しかったと聞く。制服やジャージなどの話があったが、子どもたちが、できあがっている人間関係に飛び込んでいくということがいかに大変かということをも十分に考慮してほしい。

→広報紙に記載していることも決定事項ではありません。支援に不足があれば教えていただきたいと思います。

○教育委員会が考えている「いい教育」がどのような教育なのかと感じた。少人数だと切磋琢磨できない、固定化してしまう人間関係の中で、多様性が育まれないと説明があった。しかし、少人数でもいいことがあり、少ないながらも切磋琢磨している。自分の子どもは、この地域以外の友だちもいる。教科担任制もリモートをうまく使えば解消できるのではないかな。

→少なければ少ないなりにメリットがあることは事実です。しかし、学校教育は学習面だけを教えるだけではなく、いろいろな価値観に出会う場所でもあります。様々な人と話をするという経験を積んだり、体験を通して学んだりするのが「学び」である。ただ、生徒数が少なくなっていくと、できることも少なくなってしまう。それを学校や先生方の工夫と努力で乗り越えてきたが、今後も同じように継続していくのは困難です。また、リモートの話もありましたが、友だちと一緒にあって同じ場所で同じものを共有したり、膝を突き合わせて話し合ったりする経験は、リモートではできません。

○統合をすることになっても、地域の活動や伝統芸能を大切にするような子どもたちを育ててほしい。卒業したが地域が好き、戻ってきたいという子どもを育ててほしい。

○通学路が遠くなるのがやはり心配である。スクールバスはできれば出してほしい。大きなバスでなくても構わない。また、子どもたちに具体策に対するアンケートを実施するなどしてほしい。

→検討します。

○編入案の決定を今年度中に、令和6年度についての回答を年度内に回答するとあったが、あと3か月でどのように決定し、周知していくのか。

→新入生が入学する前に、保護者の皆様や子どもたち、地域の皆様にお伝えしなければなりません。

今のところ、2月の教育委員会会議を目途に最終決定をして、3月中に皆に周知していくことを考えております。

○自転車で通うことになれば、今までしなくてもよかった経済的負担を強いることになる。一つの案であるが、電動アシスト付き自転車を一括して市で購入し、レンタル、リースすることはできないか。また、スクールバスが人件費、整備費の点から難しいのであれば、デマンドタクシーを使うことも検討してほしい。

→検討します。

○通学路が遠くなるので、事件事故が心配である。この案を進めるのであれば、教育委員会が安全を保障していただきたい。また、このような体育館を作っておいて、なぜ3年後に編入なのか。どこかで線引きをしなければならないのはわかるが、大事な受験期に違う学校に編入させたくない。長いスパンで編入統合の時期を決められなかったのか。とにかく準備期間が少ない。今日の意見では、誰も賛成するようなことを言っていない。地元の賛同が得られていないのに、令和6年4月編入案と一方的に決定するのは断固反対である。

→通学路の件だけでなく、安全に子どもたちが通えるようにということを可能な限り考えています。

そのために現在の提案で足りないことがあれば、具体的にあげていただければと思います。100%事故は起きないとは言えませんが、可能な限りの努力をさせていただきます。体育館については、躯体が耐震基準を満たさなかったため、新しくせざるを得ませんでした。準備期間をもっととってほしいとの意見もありましたが、この時点で決めないと、子どもたちへの影響が大きくなってしまおうと考え、今がその時期であると判断しました。

○小学校、中学校の全生徒にアンケートを取ってもらいたい。再三言うが編入統合自体反対である。地元の意見をしっかり聞いて、賛成が多ければ、そちらの方にもって行ってほしい。教育委員会が一方的に決めないでほしい。

→多数決によって決めるものではないと考えています。そのために、様々な機会に、様々な人から意見を聞き検討しております。一方的な決断とならないよう、保護者だけでなく、地区の方々からも意見も伺って、教育委員会で総合的に判断していきます。